
資料 2 : 報告資料

(2) 清水庁舎改修にあたって実施する第3次診断等の
詳細調査

1 第4回委員会での決定事項

整備パターン		案1	案2	案3	案4				
		1-1	2-1	3-1	4-1	4-2	4-3	4-4	
整備パターンの概要	整備方法／耐用年数	建替／65年	建替／65年	建替／65年	改修／20年	改修／20年	改修／35年	改修／35年	
	整備場所	清水駅東口公園	清水駅東口広場	現在地	現在地	現在地	現在地	現在地	
	整備可能な床面積 ○:1.3万㎡以上、△:1.3万㎡未満	△ 1.2万㎡	○	○	○	○	○	○	
整備で考慮するポイント	事業実現性	△	△	○	○	○	○	○	
	スケジュール	△	○	○	○	○	○	○	
	コスト	イニシャルコスト	約74億円	約80億円	約90億円	約62億円	約59億円	約77億円	約71億円
		年間当たりコスト ※ 【ライフサイクルコスト÷耐用年数】	4.69億円/年	4.45億円/年	4.30億円/年	5.13億円/年	5.45億円/年	4.84億円/年	4.93億円/年
	アセットマネジメント	△	△	○	○	◎	○	◎	
	将来の変化への対応力／可変性	△	△	△	◎	◎	○	○	
基本方針	行政サービスの拠点	整備中の行政サービスへの影響	◎	◎	○	△	△	△	△
		公共交通機関の利便性	◎	◎	○	○	○	○	○
		行政サービスの拠点としてあるべき姿	◎	◎	◎	△	△	○	○
まちづくりの拠点	災害時の防災拠点	災害時の防災拠点としての機能の確保	○	○	○	○	○	○	○
		清水都心地区のまちづくり方針との整合性	◎	◎	△	○	○	○	○
			まちづくりの拠点としてあるべき姿	△	○	○	○	○	○
その他	市民の愛着、清水の歴史・文化	△	△	○	◎	○	◎	○	

整備方法が「改修」に決定

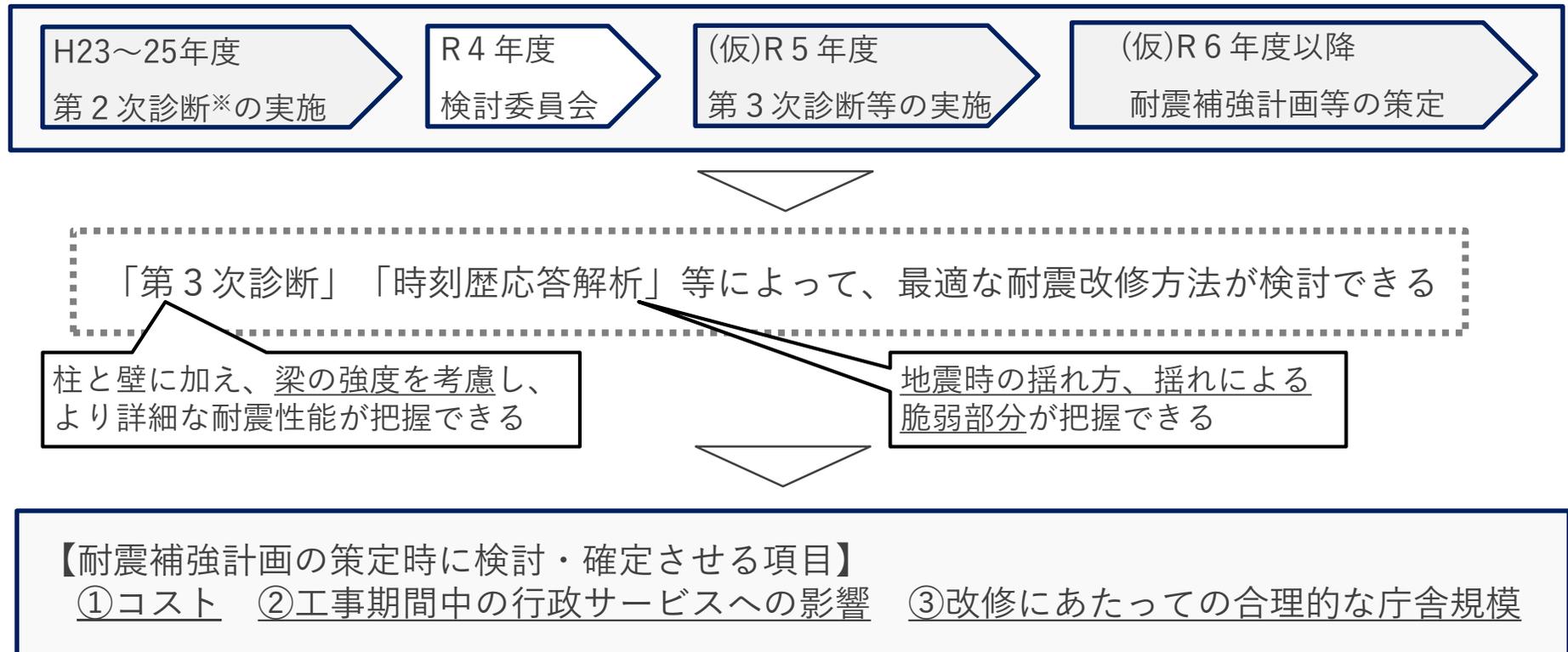


1 改修の場合は、今後第3次診断等を実施し、その結果を踏まえ改修方法を決定する。

2 清水庁舎改修にあたって実施する第3次診断等と得られる成果

「改修」は「新築」と異なり、清水庁舎の改修内容は、工事の際に様々な制限を受ける。今後改修方法を検討するにあたり、どの程度の補強が必要かや、どの工法が良いか等を判断するために、令和5年度により詳細な清水庁舎の状況を把握できる第3次診断等を行い、令和6年度以降耐震補強を含めた改修内容を検討していく予定。

改修内容の検討フロー



※参考 「第1次診断」とは…柱と壁の断面積によって、耐震性を診断する手法
「第2次診断」とは…さらに鉄筋の影響も考慮して耐震性を診断する手法

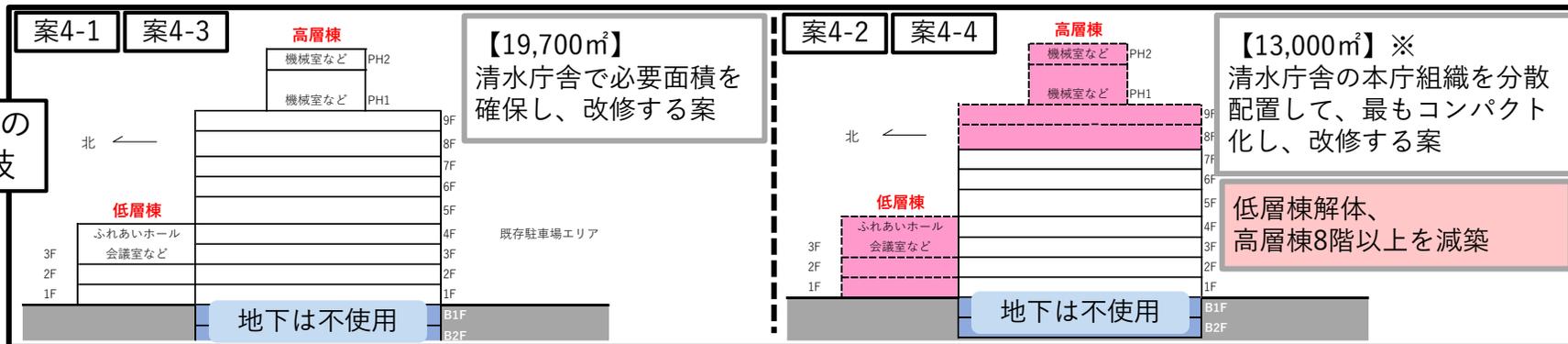
3 清水庁舎改修にあたって合理的な庁舎規模の検討（イメージ）

R3
調査

10年後の清水庁舎の適正規模をイメージするため、様々な施策による必要面積の増減についてシミュレーションを実施した。⇒清水庁舎の職員体制、諸室構成に必要な面積の目安は、19,700㎡ただし、この目安はあくまで、将来人口推計や他事例等の数値を参考に機械的に試算したもの。

R4

検討委員会での改修の選択肢



R5 年度以降

第3次診断等を実施

改修・補強方法を検討

減築や補強を含め改修方法（補強方法）の検討

工事期間中の行政サービスへの影響（音、振動、作業ヤード等）

改修方法（補強方法）ごとのコスト

耐震改修

減築

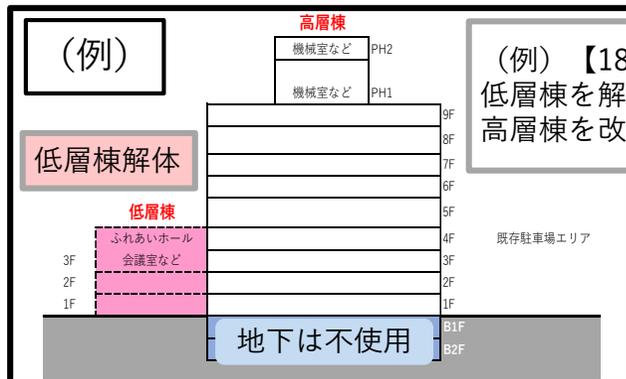
維持管理

設備改修

など

改修方法の決定

※例に提示している改修案は、あくまで合理的な改修のイメージであり、この内容で改修することを決定するものではありません。



第3次診断等にて把握した詳細な耐震性能等をもとに、行政サービスへの影響、改修方法（補強方法）ごとのコスト等を踏まえ、改修方法の比較検討を行い、合理的な庁舎規模や耐震改修方法を選択する予定